



第6話 「浦島太郎」裁判



被告人 **乙姫**

事件の争点

竜宮城の乙姫は、カメが地上から連れてきた浦島太郎と出会い、恋に落ち、夫婦同然の暮らしを送るようになった。しかし、3年後、乙姫のお腹の中に子どもが出来たことを知った浦島太郎は、「地上に帰る」と別れを切りだした。そのことに強い恨みを抱いた乙姫は、浦島太郎を殺害することを決意。殺傷能力の高い煙が詰まった玉手箱を渡した。地上に帰り玉手箱を開けた浦島太郎は、煙を浴びて急激に老化。甚大な苦痛を受けた。殺害しようとした事実を認める乙姫を、刑務所に送るか？それとも、情状酌量で執行猶予をつけるか？



裁判員の考える判決



裁判員 **滝沢奈緒** (光宗薫)

私は、乙姫を「実刑」にすべきだと思います。浦島太郎は、はじめから竜宮城に留まり続けるという意味を示していません。にもかかわらず、乙姫は自身の勝手な思い込みで二人の関係がずっと続くものだ信じ、その思い込みを覆されたことで怒り悲しみ、殺傷能力の高い玉手箱を使い犯行に及んだと考えられます。

これから母親になるという事を考えても、一度刑務所内で反省し冷静になってから、自身の子供と向き合うべきだと思います。